



【表紙】

マリ-アンリエット=
ベルトレド・ブルヌフ夫人の肖像

ジャン=マルク・ナティエ画
解説は20ページ
題字デザイン・桑山弥三郎
カット・林美紀子

もくじ

文楽の楽しさ……………如月青子 4

伝統芸能と青年層……………藤波隆之 7

国際文化交流の現状と課題
——国際交流基金のあらまし——……………草場宗春 9

〔報告〕
文化財保存修復国際研究センターに学ぶ
……………藤村 泉 12

〔随想〕
立膝考……………北村哲郎 15

文化庁ニュース

第4回日本民謡まつり終わる
——皇太子殿下も御観覧——……………17

米国巡回「琳派絵画展」について……………18

スペイン国王・王妃両陛下来日記念展
「スペイン絵画・ベラスケスとその時代」……………19

昭和55年度都道府県宗教法
事務担当職員研修会の開催……………19

〈新設法人紹介〉
財団法人東京交響楽団……………20

祭礼歳時記シリーズ ⑧
12月の祭り——銀鏡神楽——……………榎本由喜雄 21

我が県の文化行政
文化の創造と継承のために
——富山県の文化行政——……………成瀬弘生 23

海外文化行政事情シリーズ ⑤ [CDI報告書から]
アメリカの美術施設……………松野 精 26

著作権シリーズ(18)
著作権の制限——政治上の演説等の利用——
——時事の事件の報道のための利用——……………29

国立劇場ニュース……………31

〔随想〕

立膝考



ジパンの娘さんでも立膝姿は行儀が良いとは言えないだろう。ましてお客様を前にして、晴着でそんな恰好をしたら、鬢鬢を買うことはまず間違いない。

しかし、今でこそ無作法といわれるこの立膝姿は、かつてはわが国でも礼法にかなった座り方であった。

神功皇后像と伝えられている奈良薬師寺蔵の女神像や宇迦乃御魂命像と称される滋賀県小津神社の女神像はいずれも九世紀後半の作とされているが、共に左膝を立てた姿に彫像されている。また十二世紀半ば過ぎに描かれたと考えら



北村哲郎

〔文化庁文化財保護部文化財鑑査官〕

れている病草紙絵巻にも下級官人の男女が右あっている。さらには下つては十五世紀の京都三時知恩寺蔵の酒飯論絵巻にも、客に酒食をもてなす女性が右膝を立てて銚子を持っている様子が、また屏風の後にひかえる武士や給仕の少年が共に左あるいは右膝を立てている態が描かれている。

このような立膝の風習が中世を経て、近世初頭にまで一般的に行われてきたことは、絵画資料だけでなく、能に今日までその座り方が伝えられている点からも、十分窺い知ることが出来る。

るであろう。

それでは、この立膝を礼法にかなった座り方として認めてきたのは、いつ頃までのことであつたらうか。残念ながらそれははっきりしないが、少なくとも江戸時代初世まで続いてきたことは、慶安三年（一六五〇）刊行の「女鏡秘伝」に、

みやうは、左のひざを下に右のひざを上へのせかけて、左の手を左のかたの身のまん中には、どにつき、身を前にかかりたまふべしとある記述によって明らかである。

以上のように、立膝の風習はわが国でもかなり古くから、近世に至るまで永く行われてきたのであるが、一方八世紀初めの像造である法隆寺五重塔内安置の塑像の多くは、兩膝を折つての正座の姿に作られているし、また同様に九世紀後半の作とされる京都松尾神社の女神像も正座の態となっている。さらにその後の絵巻物などによっても、正座や安座の姿は多く見かけられるから、正座、安座が立膝と共に行われてきたことも事実である。

正座、安座、立膝というような座り方は、腰掛けでなく、床に座ることを常としてきた民族では、どこでもなされてきたが、今日なお立

膝が伝統的礼法として守られているのは韓国の
みのように思われる。

わが国へは恐らくこの韓国の礼法が伝えられ
たものと考えられるが、韓国では右膝を立てる
のが今では通例のようである。ところがわが国
では前にも記したように、九世紀後半の女神像
では左膝を立てているし、十二世紀から十五世
紀にかけての絵画資料などでは左右両膝がみら
れ、一定はしていなかったようである。一八世
紀末頃にまとめられた伊勢貞丈の「貞丈雜記」
には、

古は貴人の御前に伺候するには、左のひざを
立、右のひざをふせて坐しける也。宗五一冊
抜書に云、人之相伴の事、貴人の前にては、
ひざを左の方を立てあるべし。…(中略)…
酌をとる時は、右のひざを立る也、條々聞書、
酌并記等にあり…

とあって、室町時代にも両様の行われていたこ
とが記されている。ただし、これでは酒の酌を
する時にだけ右膝を立てたように読めるが、同
じく室町期の著述になる「奉公覚悟之事」とい
う書物には、
主人貴人之御相伴にしこう候はゞ、あまりに
打まかせて可坐事如何、然とてつくはうべき

事も如何、上座の方のひざを少うけて可坐也
…

とみえ、上座の位置によって立てるべき膝の左
右は決められたようである。もっとも、通例は
「貞丈雜記」にあるように、左の膝を立ててい
たようで、能の左膝を立てての座り方は、その
名残とみられよう。

韓国に今日まで続いてきた立膝の礼法が、一



国宝・木造神功皇后坐像（薬師寺蔵）

七世紀後半以後、わが国ではなぜ無作法とされ
るようになったのか、その理由は明確でない。
しかし、韓国と日本の衣服形態の違いは、主因
とは言えないまでも、かなり大きな要素の一つ
と考えられよう。

近世の韓国の女性の服はチョゴリという丈の
短い上衣とチマと呼ばれる長いスカートで構成
されており、下半身は長く幅の広いスカートで

完全に覆われている。したがって、立膝をする
ことによって裾の乱れを心配することは全くな
く、ゆったりとした姿をみせていた。九世紀の

わが国の女子の服装もほぼ似たようなものであ
ったが、わが国ではその後の服装の簡略化とい
う変化によって、裳や袴が後退脱落し、十六世
紀以後、社会の中心的衣服は現在のきもの形式
のものとなった。一枚の長着であるきものは十
六世紀末、十七世紀初めの頃には身幅も広く、
立膝に対応出来るものであったが、十七世紀後
半以後の身幅の狭い仕立は、立膝には甚だ具合
の悪いものとなった。小笠原流という礼法が
一般に普及したのは十七世紀末の元禄以後のこ
とだが、細身にみせる身幅の狭いきもの仕立
は、その普及に大いに役だったことであろう。

川柳柳多留に

立ひざで文を書くのすがたなり
との一句があるから、一八世紀後半には立膝姿
は珍しいものであったとみえる。そして、明治
初年に刊行された仮名垣魯文の「安愚楽鍋」に、
もちまえのでんぼうのしつばがあらわれ、た
てひざになりて…

とあるように、立膝はまともな人の座り方とは
みられなくなってきたのである。

編集後記

○最近、若い人たちに伝統芸能への関心が高まっている。藤波隆之氏も書いておられるように、とくに文楽に若者の愛好者が増加してきていることが注目される。長い年月の中で磨かれてきた伝統芸能は、現代の若者にも訴える何かを秘めているのであろう。

○如月青子氏は、人形浄瑠璃文楽の楽しさについて、人形、義太夫節、三味線など、それぞれの持つ「魅力」について述べておられるが、文楽鑑賞の手びきとして参考になるのではなからうか。また、我が国の国際文化交流については、つとにその充実が望まれているところであるが、国際交流基金における文化交流の現状等を草場宗春氏に解説していただいた。○今月の表紙は、昨年国立西洋美術館が購入したナティエの作品を紹介した。

(〇)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 ぎょうせい 営業課
TEL(〇)三三六八二二四二(代表)

「文化庁月報」十一月号

(通巻第一四六号)

昭和55年11月25日印刷・発行

編集文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行者 株式会社 ぎょうせい

本社 千代田区中央区銀座7丁目4番1号

営業所 千代田区新富区西五軒町52番地

電話(〇)三三六八二二四二(代表)

振替口座 東京 九一六二番

印刷所 株式会社印刷所

定価 一八〇円(送料二九円)
年間購読料 二、一六〇円(送料共)